

今月の憂いコト

ウィリアム王子の来日から、
曾野綾子の人種差別発言、
福島原発の汚染水流出、
日本人のナルシニズムまで。

東京・清澄白河にオープンした「bit Lab GARAGE」で、
「soundtrip」プロジェクトの展示作品を鑑賞し、
コーヒーとケーキを味わった田中・浅田両氏。
「マイルドなニヒリズム」で生きる術を語り合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

soundtrip

01 water (Shizuoka 2006)
02 mochi (2006)
03 higher fashion (2009)

浅田
彰

田中
康夫

戦後70年に披露される？ 日本の「ちゃぶ台返し」。

田中 初来日したイギリスのウィリアム王子が、第二次世界大戦中にアジア各地で旧日本軍の捕虜となり、日本へ移送後に亡くなった兵士の遺骨が埋葬されている横浜・保土ヶ谷の英連邦戦死者墓地も訪れ、花を手向けた。手書で「May we never forget all those who paid the ultimate sacrifice for our freedom. (私たちの自由のために究極の犠牲を捧げた人々をけっして忘れません)」と記したけど、この墓地にはイギリス兵だけでなく、英連邦を構成するカナダやオーストラリア、ニュージーランド、さらにインド、パキスタン、南アフリカから連合国軍に参加して捕虜となった1700名ほどが埋葬されている。続いて中国に向かった王子は、植民地主義の象徴ともいえるアヘン戦争で亡くなった69名の英国兵にも甲意を表したのかなという素朴な疑問も湧くよね。他方で清側の死傷者は2万人近かったのだけれど。

実は17世紀半ばにオランダ系移民が農民を意味するブルル人(英語読みでポリア人)としてケープ植民地を形成した南アフリカへ、ダイヤモンドや金の鉱脈を求めてイギリス人が到来するのは18世紀末。19世紀末にはセシル・ローズがデビアスを設立し、ポリア戦争で南ア全土を掌握した大英帝国は、英語を解さぬポリア人を二等国民として扱い、約12万人が強制収容所で非人道的扱いを受け、約2万人も死亡したのが20世紀最初の強制収容所の歴史なんだよね。この点はイギリスも黒歴史として刻み続ける必要がある。旧・西ドイツの大統領だったリヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカーが

1985年に連邦議会で「過去に目を閉ざす者は現在に対しても盲目となる」と演説したようにね。

相方が歩むべき道を見失っている時には静虚に助言・諫言(かんげん)してこそ真の友人なわけだから。それは中韓に対しても英米に対してもね。そうした大人の日本になるうえで、ウィリアム王子が来日した日に「判決本文を日本が受け入れた東京裁判自体は無効ではないが、判決理由にまで拘束される謂われはない。私たち自身で検証すべき」と自民党政調会長の稲田朋美が会見で述べたのは、友人であればこそ諫言したいね。

国家対国家で起きた戦争の責任を、連合国側の判事が「敗戦国」の個人に負わせた判決の本身は法律的に問題だ、と主張したいんだろうけど、裁判自体を肯定した後で個別内容を否定する「Yes・But話法」は、契約社会を理解していない日本特有の修正主義だと捉えられてしまう。

外務省HPには日本政府の見解として「この裁判に関しては様々な議論があることは承知していますが、我が国はサンフランシスコ平和条約第11条により、極東国際軍事裁判所の裁判を受諾しており、国と国との関係において、この裁判については異議を述べない」と記している。

サンフランシスコ平和条約調印と引き換えに連合国は日本国の主権回復を承認したわけで、その会議に参加・署名した51か国が国際連合の原加盟国なのだから、それに反旗を翻すのは国際連盟から日本が脱退したのと同じく、今度は国際連合からも脱退する松岡洋右(まつかう)という話になっちゃう。



浅田 戦後レジームからの脱却を本気で唱えるのならそういうことになるね。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領とい勝負(ま)笑。それだけの覚悟がないくせに軽々しく発言するから困る。

たしかに勝者が敗者を事後法で裁いた東京裁判は法的にはおかしいんだけど、日本はその判決を受け入れることで世界の戦後レジームに参加したわけだし、日本人自身の問題として戦争を反省してきた。その象徴が戦後50年の村山談話。それと慰安婦問題に関する河野談話を踏襲するって言っときやすむんで、戦後70年だからって新たな談話を出す必要はない。10年ごとに出すの

かっつての。マキャヴェリズム的に言っても、こういう問題を蒸し返して騒ぐのは愚の骨頂。安倍晋三首相が過去の談話の内容を「ちゃぶ台返し」したいっていうホンネをどう誤魔化すか。まあ、ろくなことにならない気がするね。

田中 7年かけて堤清二をはじめ11人との対談をまとめた『谷垣禎一の興味津々』を出した自民党幹事長の谷垣禎一がその出版を祝う会で、「安倍晋三首相はアドレナリンが過過ぎていて、前のめりになる傾向がある」と揶揄したと政治評論家の鈴木棟一が『夕刊フジ』に書いていた。「本来の自民党に戻すのが私の仕事です」と。

浅田 そう、自民党にはタカとハトが同居してたのに、いま聞こえてくるのはタカの声ばかり。

田中 端的に言えば、「田園都市国家」を掲げた大平正芳的な経世済民の部分ね。
浅田 続々と出る献金問題ですが党内でも安倍政権への批判が出てきてはいるけれどね。しかし、民主党がまたけっこうタカ

なんで、どうしようもない(苦笑)。

ジャルパック時代の 「アグリ・ジャパニーズ」。

田中 建国記念の日の2月11日付産経新聞に曾野綾子が「居住区だけは、白人、アジア人、黒人というふうに分けて住むほうがいい」と寄稿した。高齢者介護など「労働力の補充のためにも、日本は移民を受け入れねばならない」と「資本の論理」を展開する中で発言。しかも騒ぎになると「私はアパルトヘイトを称揚したことはありません」と弁明する一方、「チャイナ・タウンやリトル東京はいいものでしょう」と文書回答してさらに大炎上(苦笑)。法律で居住地域を定めると中華街等の商業地域は別の話なのに。

浅田 観念的な左翼はダメだ、私は世界の現実を見てきているのが曾野のポーズでしょ？ それであんなことを言っちゃうんだから驚くよ。

田中 他方で曾野と対極のリベラルと呼ばれる人たちは、「多様な民族を受け入れる姿勢こそ日本には必要だ」と述べるけど、その善意の「友愛の精神」は、冒頭で述べた南アの事例ではないけど二等国民を「量産」したい「資本の論理」を後押しするわけが痛し痒しだ。以前にも紹介したけど「トレンドを変えていくことで、50年後にも1億人程度の安定的な人口構造を保持」と昨年6月24日に閣議決定し、経済財政諮問会議で内閣府が配布した「年間20万人の移民受け入れで100年後も人口1億人維持」の文書がHPにアップされているのだからね。

他方、旧正月(旧春節)で中国人の来日ラッシュが社会問題化した。行列に並ばない中国人を閉め出せ、とネットウヨ的な発言が相

次ぐけど、「ビジット・ジャパン」と称して外国人旅行者の訪日を増やしている政府に抗議する血気盛んな行動には発展しない腰砕け（苦笑）。我々も高度経済成長期にジャンルバックで欧米へ出かけて、同様に見られてたのに健忘症状状態。

浅田 もともとアメリカ人がヨーロッパを訪れるようになったときにヨーロッパ人から「アグリ・アメリカン」と小馬鹿にされてたのが、次の時代に「アグリ・ジャーナリスト」になり、いま日本で「アグリ・チャイニーズ」と言って馬鹿にしてる、そんなの時間とともに変わっていくだけの話。中国本土でも「文明化」つてのが大命題で、むやみに唾を吐かないとか、ちゃんと列に並ぶとか、意識して民度を上げようとしてる。10年も経てばずいぶん変わると思うよ。

だいたい京都のような観光地にとつては中国人観光客は大事なお客さん。大阪だつてそうだよ。昔は中国人観光客は電化製品を買って帰ったんだけど、今はドラッグストアで化粧品や薬や粉ミルクの類を買って帰るんだよね。心斎橋のドラッグストアでも必ず免税カウンターがあって中国人観光客で大賑わい。日本の安心・安全な薬品や化粧品や食品を高級品として輸出すれば、中国は巨大市場だからけっこういけるんじゃない？

そういう流れは当然なんだけど、曾野綾子の言ってることも重要な問題に触れてはいて、生活レベルでの摩擦が排外主義につながる恐れもないわけじゃない……。

田中 にしても、あまりに言葉がラフすぎるよ。移転の自由を奪い、居住区を一方的に決めることこそ常日頃から彼女が否定している社会主義計画経済じゃん（笑）。

1億総ナルシシスト？ 大人になれない日本人。

田中 偽装米を販売しただけで逮捕されるのに、東京電力福島第一原子力発電所の建屋の屋根から排水路を通じて高濃度汚染水が外洋に流出しているのを把握しながら1年近くも隠蔽していたのがお咎めなしとは、法治国家と呼べないよ。

浅田 バレないと思ってること自体が信じられない。僕が担当者だったら責任逃れのためにすぐ発表するな。正しい戦況を伝えるための大本営発表と同じ。だいたい首相がIOC総会で「アンダー・コントロール」(コントロールされてる)つて公言しちゃったわけだし（苦笑）。

田中 「人生いろいろ」だと、うそぶいていた小泉純一郎に「政府は嘘を言っている」と吠える機会を与えてしまった。年度内に完了すると公言していた汚染水の処理は一向に終わらず、アウト・オブ・コントロールなわけだ。実はアンダー・コントロールされているのは原発でなく、国民だったと。法治国家がすべてを放置する「放置国家」となり、さらには「呆痴国家」になっている。メディアも「鈍感力」を発揮している

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。

一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。

長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

し、その状況に怒りもしない国民の民度は「眠度」と表記を改めるべきかもしれない。浅田 汚染水を凍土壁で遮る計画にしても、水が凍らないから大量に水を入れたつていうから苦笑するほかない。それがまたすべて汚染水になるわけだよ。そんなの空想的なアーティストの妄想みただつて言ったら、「今どきのアーティストはもつとちゃんとフィジビリティ・スタディをやる」つてアーティストに叱られた（笑）。

そもそも震災から4年もたつてまだ被災者が仮設住宅に住んでるつてどういうこと？ 田中さんが前から言ってるように、福島原発周辺にはもう住めないんだから、中間処分場とか言つて誤魔化さず、そこに最終処分場を設けるしかない。代わりに、そこに暮らした住民の集団移住を強力にサポートする。旧・ソ連がチェルノブイリ周辺の住民を強制的に移住させた、それは独裁国家ならではの強引な手法だけど、いつか故郷に帰還できるかのように言つて具体的な将来設計もなく生殺しにするのは、それより残酷だよ。

田中 除染は移染に過ぎないのだから、フ

クイチ周辺30キロ圏内は「放射能に占領された領土」だと冷静冷徹に認識し、閉古鳥が鳴くゴルフ場をはじめとする遊休地に「新しい村」を造営すべきと「3・11」直後から提案していたんだけどね（涙）。4年を経て、フクイチ周辺4町（富岡・大熊・双葉・浪江）の避難住民で「戻りたい」と帰還を希望するのは1割台にとどまると復興庁の調査で判明した。それは帰還困難区域だけでなく、居住制限、避難指示解除準備の区域を含めての数値。

他方で岩手・宮城被災2県に限つても3万6079戸の仮設住宅の撤去は震災5年の来年2016年3月末まで全体の10%にとどまると発表された。同じく5年で4万8300戸の仮設住宅が全撤去された阪神・淡路大震災とは雲泥の差。福島県の1万6800戸に関しては撤去の目処すら発表し得ぬ状況だ。他方で通算10年間の復興予算は30兆円を超えると政府は見込んでいる。仮に23万人の避難者に1人5000万円を渡しても、その3分の1の11兆円。家族4人で2億円。これで衣食住ならぬ「意職住」の仕事と住居を整えて、意欲を持つて新天地で再スタートを切るべく支援したほうがはるかに短期間に裾野の広い経済効果も見込める。なのに、そうはならない。最初全員反対だったダム建設予定地の住民が次第に諦めてしまうのと同じで、時間をかけて諦めさせる手法は行政の常套手段なんだよ。実は数値が全ての新自由主義は社会主義でもあるんだから、チェルノブイリ事故の際に住民を強制移住させたソビエトに学ぶべきでしょ。

話は変わるけど、僕も寄稿した『現代思想』（2015年3月臨時増刊号総特集・宇沢弘文）で柄谷行人が、柳田国男の農政学

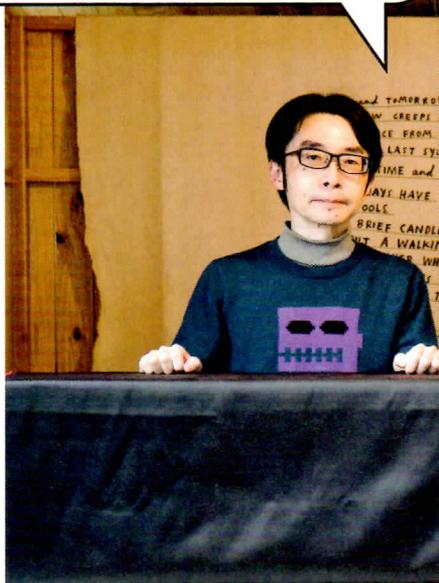


「人生いろいろ」だと、
うそぶいていた小泉純一郎に
「政府は嘘を言っている」
と吠える機会を
与えてしまった。(田中)

の継承者は東畑精一でなく、実は宇沢弘文だ、と書いていた。宇沢の唱えたコモンズは柳田が示す「社倉」という集落のあり方と似ているのだと。奇しくも僕と同じような考えを柄谷が書いていて不思議な気がしたよ。

浅田 柄谷行人は、共産党が国家権力を奪取することで資本主義を解体し、ひいては国家そのものを解体するっていうロシア型マルクス主義——とくにボルシェヴィズムの根源的批判を進めてきた。カール・ポラニーが整理したとおり、市場の交換と、国家による再分配のほかに、共同体における贈与のネットワークってものがあるわけだけど、ロシア型マルクス主義のように国家で市場を統制するだけではダメで、むしろ贈与のネットワークを高次のアソシエーションとして回復することが社会主義の本道だ、と。マルクスが達成すべき理想としての社会主義・共産主義を描くことを禁欲したのはいいんだけど、大体は最も資本主義の発達したイギリスでさらなる社会化の果てに社会主義が実現されると考えてた、しかし、ロシアで前近代の共同体をバネに脱近代に飛躍するって議論が出てきたとき、それを頭から否定しようとはしなかったために、ロシアや中国や北朝鮮はまさしく前近代的な一党独裁から個人崇拜へという最悪の道をたどることになった。イギリスでは資本の集積が進む一方でウィリアム・モリスのアーツ&クラフツのような運動もあった。小さなアトリエのネットワークを基礎として、質的に豊かで美しい労働と生活を実現しよう、と。そのモリスも実はマルクス主義者で、『資本論』をきれいに装丁したりしてるわけ。われわれはマルクス主義というボルシェヴィズムを

情報産業が主役になったいまは、むしろ小さなアトリエのネットワークが経済全体を変えるような力を発揮しつつある。(浅田)



考えちゃうからモリスなんてのは趣味人に見えないけれど、モリスのような人こそマルクス主義者だと考えればまったく違った社会主義像が見えてくる。近年の柄谷行人はそういうことを強調してるんだよね。田中 なるほどね。その辺りのことが、先日『ゲンロンカフェ』で行われた浅田さんと中沢新一、東浩紀の鼎談(『新潮』4月号に採録)では、後の二人には今ひとつピンときていない印象だった。浅田 中沢新一はむしろモリス寄りだけど、東浩紀はそういうものだけでは過激派に走るような人々の情念をすくい上げきれないって言うわけね。ともかく、重厚長大産業が主役だった時代は、巨大な資本に対して労働組合をつくり、それを前衛党に集約し、階級闘争を革命的に勝ち抜くほかに、アナキストみたいに小さなアトリエのネットワークみたいなことを言ってるのは呑気な趣味に過ぎない、と言われた。しかし、情報産業が主役になったいまは、むしろ小さなアトリエのネットワークが経済全体を変えるような力を発揮しつつある。そこではたとえればモ

浅田 彰
あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

リス的なヴィジョンもかえってアクチュアルになるんじゃないか。もちろん、それですぐ世界が変わるわけじゃないけど。田中 あのなかで浅田さんは「マイルドなニヒリズム」と言っていたけど。浅田 前々回に話題にしたミシェル・ウエルベックの『服従』に即しての話で、それを声高に主張するわけじゃないけど。ともかく、ナルシズムを捨ててることが第一でしょう。若い頃はナルシシステックな自意識の病いに苦しみ、自己顕示のためにわざと過激な道を選んだりもする。大人になるってのはそういうナルシシズムの病いを乗り越えることだったわけ。しかし、いまは大人になってもナルシシストのまま。ネットを見ても、みんな自己宣伝ばかりでしょう。で、フォローワーが増えるに喜ぶ反面、ちよっと批判されると逆上して関係を切る。田中 弁証法の発想すら持ち合わせぬ、いや持ち得ぬ、余裕のない風潮の時代。浅田 まさにそのとおり。「他者と仲よく共生しよう」という道徳も、他者との批判の応酬で互いに傷つきたくないっていうナルシシズムから来る部分が多い。それだとある種のやさしさや残酷さが背中合わせに

なった関係を越えられない、他者と真つ向から論争することでしか真の関係は築けないってのが弁証法だよ。『ジャルリー・エブド』襲撃事件以後、言論と表現の自由を擁護する意見とともに、過激な風刺で他者を傷つけちゃいけないって意見もよく聞く。確かに、批判されるとすぐ傷つくひ弱なナルシシストたちの社会では、そういう配慮も必要かもしれない。だけど、風刺されてもかえって面白がるってのが大人なんじゃないんだよ。ぼくはやっぱりそれを目指すべきだと思ってる、社会全体が幼児化してきたから言論や表現の自由にも一定の枠をはめるべきだって議論には与したくない。

しかし、さらに言えば、論争すら成り立たない相手とは、今西錦司的に言えば住み分けるほかにいってこともあって、東浩紀はむしろそういうことを強調してたんだけど……。田中 その昔から述べてきているように「矜持と諦観」を一人ひとりが併せ持つこそ進歩や成熟も期待できるのに、今日のナルシシズムの空威張りな日本凄じい論が幅を利かせていて、困ったもんだね(苦笑)。

**紀伊國屋サザンシアターで
憂国呆談の公開対談開催!**
『33年後のなんとなく、クリスタル』出版記念
『憂国呆談』25周年記念公開対談
田中康夫×浅田彰
「もとクリ」「いまクリ」から
日本の現在、そして未来まで!
日時: 4月25日(土)午後7時開演
会場: 紀伊國屋サザンシアター
(紀伊國屋書店新宿南店7階)
tel. 03-5361-3321
www.kinokuniya.co.jp/c/label/theater